

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年 11 月 3 日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
検証テーマ： オープニング、サウジアラビアのジャーナリスト殺害事件、文化勲章親授式 参議院事務局の男性が置き引き、【特集】直前報告！アメリカ中間選挙		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島県呉市の女性殺害、東京で出頭の元従業員の男を逮捕 ・ 立教大の学園祭で整理券巡り 6 人がけが ・ 一昨年のカナダ・バンクーバーの邦人女性殺害事件で被告に終身刑判決 ・ サウジアラビアのジャーナリスト殺害事件 ・ 三重県で南海トラフ巨大地震を想定した訓練 ・ 文化勲章親授式 ・ 大分県がボランティア尾畠さん表彰 ・ 競技かるたの世界大会初開催 ・ 静岡県で大道芸ワールドカップ ・ JR 内房線の踏切事故で乗用車の男性死亡 ・ 埼玉県川口市で住宅全焼で住人男性二人に怪我 ・ 参議院事務局の男性が置き引き ・ 【特集】直前報告！アメリカ中間選挙 ・ 【特集】厳冬期の災害にどう対応するか 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング 番組のオープニングではワシントンの中継から金平キャスターが「中間選挙まであと三日というアメリカで取材をしています。アメリカ国民が今や完全に 2 つに分断されています、トランプ大統領を支持する人とそうでない人々、その対立は二年前の大統領選挙のときよりも深まり危機的な段階だと実感しました、後ほど中継でここワシントンからお伝えます。」とコメントしていた。このコメントに当てられた時間は 25 秒で、特に問題は見られなかった。 ・ サウジアラビアのジャーナリスト殺害事件：結論→特に問題なし ジャーナリストのジャマル・カシヨギ氏の殺害についてトルコのエルドワン大統領は 2 日ワシントンポストに寄稿し、殺害はサウジアラビア政府の最高レベルからの司令だったと主張したこと、エルドワン大統領はさらにサルマン国王が命令したとは全く思っていないと指摘し事件への関与が取り沙汰されるムハンマド皇太子については言及しなかったものの 2001 年のアメリカ同時多発テロやウォーターゲート事件などを例に今回の事件についても事件の指南役は誰なのか暴かなければならないと訴えたとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。 		

・文化勲章親授式：結論→特に問題なし

皇居宮殿では文化勲章の親授式が行われ天皇陛下から勲章が贈られたこと、今年の受賞者は劇作家の山崎正和さんや陶芸家の今井政之さんら五人で陛下は「長年努力を重ね大きな業績を収められ文化の向上に尽くされたことを誠に喜ばしく思います」とお祝いの言葉を述べられたとのが報じられるとともに、来年4月の退位を控え、陛下が文化勲章の親授式に臨まれるのはこれが最後になるとのことも伝えられた。また文化勲章を受賞した陶芸家の今井政之氏の「平成の最後の年に当たります年に私ども大変な御縁を頂いて」というコメントが取り上げられていた。

このトピックに当てられた時間は43秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・参議院事務局の男性が置き引き：結論→特に問題なし

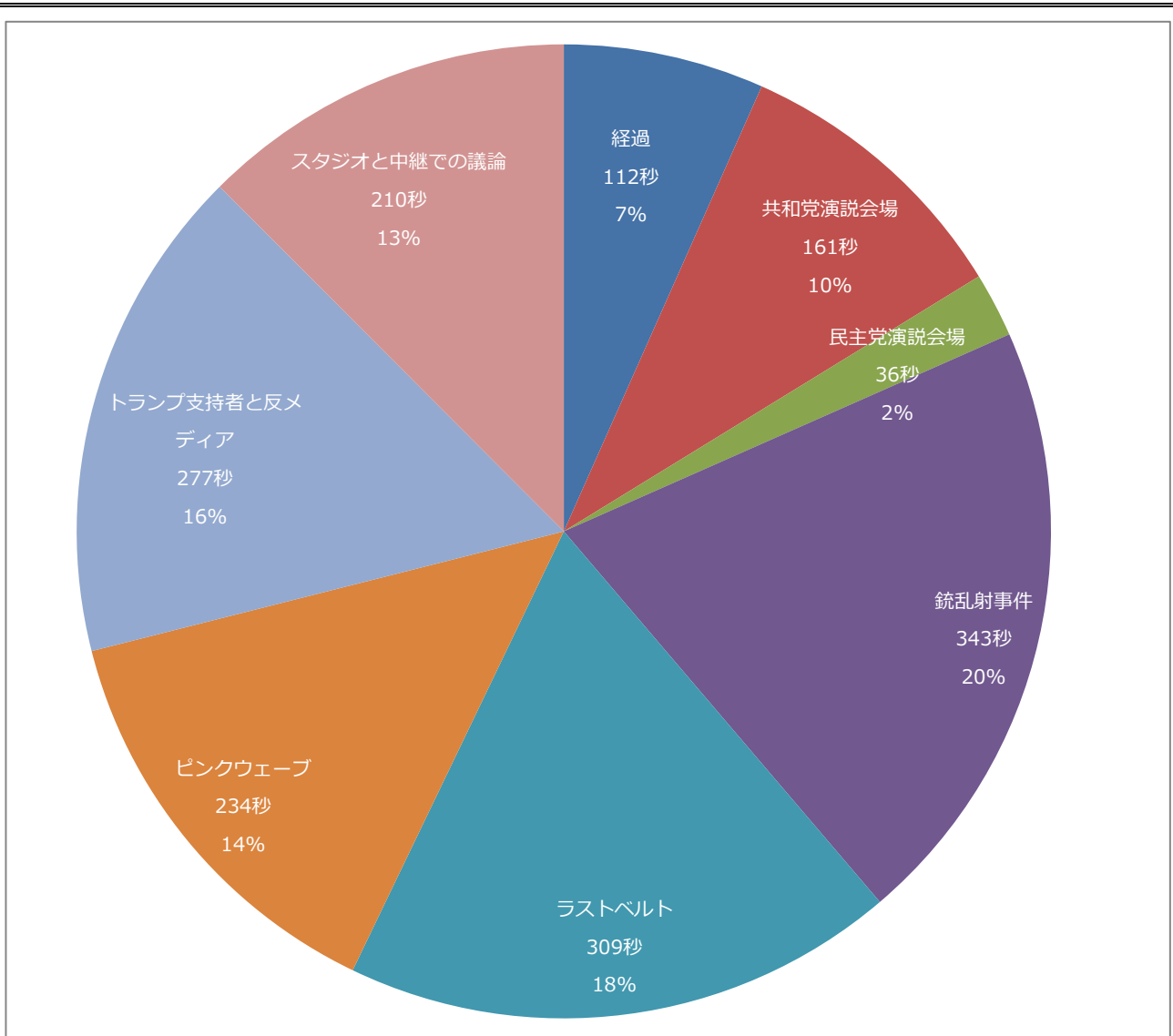
参議院事務局の職員の石川智久容疑者がさいたま市にあるJR南浦和駅にとまっていた電車内で男性の手提げバックを置き引きしたとして逮捕されたこと、石川容疑者は午前一時前JR南浦和駅にとまっていた京浜東北線下りの最終電車内で居眠り運転をしていた54歳の男性が網棚に置いていた手提げバックを盗んだ疑いが持たれているとのこと、警察によると先月京浜東北線では同様の手口の置き引き事件が10県相次いでいて警察官が警戒していたところ電車内で不審な動きをしている石川容疑者を見つけたということ、石川容疑者は調べに対して容疑を否認していて警察は余罪についても調べているとのが報じられた。

このトピックに当てられた時間は59秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】直前報告！アメリカ中間選挙：結論→問題あり

アメリカの中間選挙についての特集が組まれていた。

この特集ではアメリカ中間選挙についての概要や経過および特集の導入についての場面、共和党の演説の様子、民主党の演説の様子が取り上げられたほか、特に銃乱射事件、ラストベルト、ピンクウェーブ、トランプ支持者と反メディアについて深く掘り下げられた場面があった。また特集のVTRを承けてスタジオと金平キャスターの間でやり取りが繰り広げられた。特集に当てられた時間は1682秒で、これらの場面についてのそれぞれの時間配分および比率は以下の通りであった。



共和党演説会場では以下に朱記したような2つ場面が取り上げられていた。

【シーン1】

ナレ「トランプ大統領はより多くの会場で、演説をこなすため、空港に集会の会場を設置し、大統領専用機、エアフォースワンを降りて、そのまま演説を行うという作戦をとっています。」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「民主党は国境を開いて、キャラバンを招き入れたいそうだ。」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「キャラバンを受け入れたいか？」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「理解できない。意味が分からない。」

ナレ「トランプ大統領は中米からアメリカへの入国を目指す集団、キャラバンを取り上げ、民主党を激しく攻撃しました。」

"ナレ「そしてお決まりの」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「アメリカをふたたび偉大に！（Make America Great Again）Thank you very much west verginia」

ナレ「演説を終えると再びエアフォースワンに乗り込み、次の会場、インディアナ州に向かいました。」

【シーン2】

ナレ「トランプ大統領の強固な地盤である、フロリダ州、フォートマイヤーズ。この日、大統領本人が登壇する

集会が行われるが、会場周辺では、始まる 6 時間も前から、熱気に包まれていた。」

ナレ「大手テレビ局、CNN をからかう T シャツを着る人も。」

"金平（翻訳・字幕）「なぜそんな T シャツを？」

男性（翻訳・吹替）「その通りだからさ。メディアの連中がやるべき仕事をしてないんだよ。だからトランプはツイートで真実を知るにはこれしかないというんだ。」

金平「熱烈な共和党支持者というか、トランプ支持者ですけれども、さっきから流れている曲を聴いていると、ローリングストーンズとか、クイーンとか、なんか共和党の主張とはちょっと違うような、グループの音楽が流れてるんですけど、」

ナレ「アメリカでは、銃乱射事件が起きたばかりだが、こんな人もいた。」

金平（翻訳・字幕）「昨日ピッツバーグの銃撃事件取材しました。悲しい話です。」

女性（翻訳・吹替）「本当に悲しいけど、メディアは何でも捻じ曲げてしまう。どうかしてるわ。」

ナレ「経済や、外交、移民問題などで、アメリカ第一主義を貫くトランプ大統領。政権誕生から 2 年間の信任投票といわれる中間選挙が目前に迫っている。」

民主党演説会場では以下に朱記した場面が取り上げられていた。

ナレ「民主党は、オバマ前大統領らが、各地の選挙区を回り、”未来をより良いものにするために、とにかく投票に行こう”と、訴えています。この日は会場内で共和党支持者などが、演説を妨害するような場面も。」

オバマ前大統領（翻訳・字幕）「ほかの候補者を支持するなら、彼らのところへ行きましょう。」

銃乱射事件については以下に朱記した場面が取り上げられていた。

金平「乱射事件があったピッツバーグの閑静な住宅街にあるユダヤ教の礼拝所ですけれども、ここがその現場です。えーまだ 2 日しかたってないんですけども、たくさんの花が手向けられています。」

ナレ「ユダヤ教の礼拝所で男が銃を乱射。11 人が死亡、6 人が負傷した事件。逮捕されたロバート・バウアーズ容疑者は、拳銃 3 丁と、自動小銃一丁所持し、発砲したという。

現場に居合わせた男性（翻訳・吹替）「だだだだだ、ダダダダという音が 3 回ほど続きました。それに対して、警察官が銃で発砲しました。そんなことが、1 分ちよつとの間続いたと思います。私も、あそこに並んで座っているはずでした。でも、40 分遅れて到着したんです。もしあの中にいたら、私は犠牲者たちと同じように、撃たれていたことでしょうね。」

ナレ「バウアーズ容疑者は、SNS でユダヤ系団体は、中米諸国からアメリカに向かう移民を支援しているなどと、不満を書き綴っていた。」

ナレ「これに対し、トランプ大統領は」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「銃規制とこの事件の関係はほとんどない。教会の中に（銃による）セキュリティーがあれば、ひどいことにはならなかった。」

ナレ「ユダヤ教の聖職者に聞くと、」

ユダヤ教の聖職者（翻訳・吹替）「残念ながら、今の政権で分断は広がったと思います。」

ナレ「現場近くの病院で 15 年間務めたことがあり、この地域に知人も多いという女性は」

女性（翻訳・吹替）「とにかく、心が痛むわ。どういへばいいのかわからないけど、一言だけ。トランプさんあなたのせいよ。白人至上主義やネオナチ、邪悪な物を人々が心に抱くからよ。怒りや憎しみを大統領が煽っているなんて、本当に愚かなこと。私たちは本来、そんな存在ではないのに。」

ナレ「トランプ政権誕生以降も相次ぐ銃乱射。ラスベガスでは、去年 10 月、58 人が死亡する事件が発生。今年 2 月には、フロリダ州のパークランドの高校で、生徒ら 17 人が死亡している。」

ナレ「一連の事件は、中間選挙に影響を与えるのか、若い世代からは銃規制を求める声が上がっている。集会にはパークランド銃乱射事件の生存者も参加していた。」

銃乱射事件の生存者（翻訳・吹替）「銃を撃ちながら、教室に入ってきたんです。1階から2階、3階へと。私は銃規制に賛成です。銃規制だけでなく、人種間の争いも、適切な候補者がいれば、解決すると思います。」

ナレ「被害者の高校生らは、**MARCH FOR OUR LIVES** という銃規制を求める運動を開始。全米へと広がりを見せている。」

ナレ「こうした中、トランプ大統領が銃撃現場を訪れた。」

金平「えーショッキングな銃乱射事件があったピッツバーグのシナゴグに今、トランプ大統領と、メラニア夫人が、弔問に訪れていますけれども、」

ナレ「大統領夫妻は、およそ 30 分事件現場に滞在。同じころ、市内では、」

ナレ「トランプ大統領に対して、分断を煽る言動をやめるよう求める反ヘイトデモが行われていた。」

ナレ「トランプ大統領はこのデモについて、小さなデモがあったが、遠くて見えなかったとツイートした。」

ラストベルトについては以下に朱記した場面が取り上げられていた。

ナレ「ペンシルベニア州、西部の町、モネッセン。ラストベルト。さびた地帯と呼ばれるこの地域は、元々、強固な民主党の地盤だった。しかし、2年前の大統領選で、トランプ氏を支持する州が続出し、トランプ政権誕生の原動力となったのだ。」

金平「私の後ろに見えるのは、かつての製鉄工場ですけれども、ここもかつては鉄鋼の町として、非常に栄えました。しかしその後、工場の閉鎖が相次いで、多くの人々が、職を失いました。2年前の大統領選挙の時には、トランプ氏がここに遊説に訪れて、鉄鋼の復活を説いたこともあって、多くの有権者たちがトランプ氏に票を投じました。えーそして今回の中間選挙ですけれども、この町に住む有権者たちはどういう投票行動をとるのでしょうか。」

ナレ「夜になっても稼働している工場があった。製鉄工場ではなく、最近再開されたコークス工場だ。2年前、トランプ氏に投票したという男性は。」

"金平（翻訳・字幕）「Q、あなたにとって一番大事な問題は何ですか？」

モネッセンの有権者男性（翻訳・吹替）「経済です。今のこの状態だと、最低限の生活をしているだけです。まあかつてないほど良いとまでは言えないけど、好転はしました。景気が少し良くなりました。」"

ナレ「一方、ジョン・ゴロンブさんも、大統領選でトランプ氏に投票したが、今は落胆しているという。取材を始めるや否や、こうまくしたてた。」

ゴロンブ氏（翻訳・吹替）「本当にひどい、この町の現状には、心が締め付けられる。トランプがやってきたのが、2年前、アメリカの鉄鋼についてあれこれ約束したのに、こんなにひどくなったのは初めてだ。本当にがっかりだ。それが今のアメリカ大統領なんだ。」

ナレ「ゴロンブさんは、かつて地元にあった名門製鉄会社の従業員だった。大統領選の際、民主党候補のヒラリークリントン氏は、モネッセンに足を運ばなかったが、トランプ氏は製鉄所の跡地で、演説をした。」

トランプ候補（翻訳・字幕）「多くのペンシルベニアの町はかつては繁栄し、にぎわっていたが、今は完全に荒廃している。今アメリカ人が未来を取り戻すべきだ。」

ゴロンブ氏（翻訳・字幕）「アメリカの鉄鋼産業を取り戻してくれると信じていた。2016年のモネッセンの選挙運動で、彼ははっきり言った。大好きなアメリカの鉄鋼を取り戻すとね。だから我々の苦しみを分かっているし、本当に取り戻してくれると思ったんだ。鉄鋼は世界の誰もが必要とするものだからね。」

ナレ「ゴロンブさんは、モネッセンの現状を私たちに見せたいと、町の中心部を案内してくれた。」

ナレ「至る所に、立ち入り禁止となった廃墟が立ち並び、町は荒廃していた。」

ナレ「止まらない、産業の空洞化。結局トランプ氏は無策だった。と切り捨てる。」

ゴロンブ氏（翻訳・吹替）「ここ育ったから、心が引き裂かれそうだ。いい町だった。映画館も靴屋も理髪店もあったんだよ。この街で何でも手に入った。鉄鋼のおかげさ、みんな幸せだった。」

ナレ「かつて、アメリカの工業化を支えた製鉄業。鉄鋼の生産が盛んだった 1940 年代に 2 万人を超えていた町の人口は、今では、およそ 7000 人にまで、減少している。」

ゴロンブ氏（翻訳・吹替）「仕事がないから、出ていくしかない。寂しいね。我々こそが製造業における世界の巨人だったのに、それがどこに変わったと思う？ 共産党の中国さ。」

ナレ「ゴロンブさんは何度も、トランプ氏には今後一切投票しない。と語気を強めた。」

"ゴロンブ氏（翻訳・吹替）「見てくれ、これがアメリカだ。ペンシルベニアのモネッセン。トランプの仕業さ。大統領、一体何をしているんだ。この街をどうしてくれるんだ。」

ゴロンブ氏（翻訳・字幕）「大統領閣下よ」

ピンクウェーブについては以下に朱記した場面が取り上げられていた。

ナレ「首都ワシントンの南西、150 キロにあるバージニア州、シャーロットビル。この街の選挙区で、注目を集めている女性候補がいる。」

女性（翻訳・字幕）「バージニア州をひっくり返します。」

ナレ「民主党のレズリー・コーバン候補。ジャーナリストとして、アメリカ 3 大ネットワークの一つ、CBS の看板ドキュメンタリー番組、60 ミニッツを手がけてきた。政治経験は無いが、共和党の地盤が強固な、ここバージニア州の選挙区で、接戦を演じている。」

金平「ネートランプ大統領の女性蔑視の言動に対する反発やいわゆる Me Too 運動の高まりによって、今回の中間選挙では、女性の出馬する、候補者の数が史上最多となっています。」

金平「まあいわゆるピンクウェーブ。女性の候補の勢いというのは、この選挙運動の大きな焦点の一つとなっております。」

ナレ「全米を席卷するピンクウェーブ。象徴的なのは、民主党の女性候補たちだ。」

ナレ「ミネソタ州で立候補し、当選が有力視されているソマリア出身のイルハン・オマー候補。イスラム教徒の女性として、初の下院議員になる可能性がある。」

ナレ「ニューヨーク州では、新人、アレクサンドリア・オカシオ・コルテス候補が予備選挙で重鎮の男性候補を破った。当選すれば、女性として、史上最年少の下院議員となる。」

ナレ「民主党は上院、下院合わせて、200 人もの女性候補が、本選に進んだのに対し、共和党は 60 人にとどまっている。差別的な発言に繰り返すトランプ大統領には、共和党内からも、怒りの声が上がっている。」

ナレ「これは共和党員の女性たちが制作した宣伝映像だ。党員の女性たちが、民主党の候補者への支持を表明している。2 年前の大統領選で、民主党の副大統領候補に指名されたティム・ケイン上院議員。女性候補の躍進を、こう見ている。」

民主党ティム・ケイン上院議員（翻訳・吹替）「2016 年以降、いろいろあったので、たくさんの女性が、奮い立ったんだと思います。」

民主党レズリー・コーバン候補（翻訳・吹替）「状況を打破したいという機運が盛り上がっています。ブルーウェーブが来ているし、ピンクウェーブにも、強く期待しています。」

金平（翻訳・字幕）「#Me Too 運動は影響していますか？」

コーバン候補（翻訳・吹替）「重要なのは、今回たくさんの女性が、選挙活動に参加していることです。この選挙

区では、普段は表に出てこないなん住人もの女性たちが、戸別訪問しています。これは Me Too 運動の影響です。人々の権利が守られ、女性に対しても、公正であってほしい。できるだけ早く、そうしたものを手に入れたいのです。」

トランプ支持者と反メディアについては以下に朱記した場面が取り上げられていた。

ナレ「今週、フロリダ州で行われた、トランプ大統領の集会。8500 人もの支持者が、集まった。会場の熱気が高まる中、こんな場面も」

金平「あそこに立ってるのは、CNN のリポーターですけども、リポートしようとする、レポートを妨害するような、CNN に対して非常に強い非難の言葉を浴びせています。」

支持者（翻訳・字幕）「CNN は最低だ。CNN は最低だ。CNN は最低だ。」

ナレ「会場にいたのは、大手テレビ局、CNN のジム・アコスタ記者。トランプ大統領の就任会見で、たびたび食い下がるも、質問を拒否された名物記者だ。」

アコスタ記者（翻訳・字幕）「大統領、質問させてください」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「君の質問は聞かない。君の局はフェイクニュースだ。」 "

ナレ「この日の集会では、支持者の標的となった。」

支持者の男性（翻訳・字幕）「お前は政治的に偏るべきじゃない。ちゃんと報道しろ。」「お前は報道をしていない。偏っているんだ。」

アコスタ記者（翻訳・字幕）「ご意見ありがとうございます。」

支持者（翻訳・字幕）「俺の T シャツいいだろ」 "

ナレ「トランプ大統領が現れると、会場は異様な空気に包まれた。」

金平「大変な、なんか会場いっぱいひびきわたるような恐ろしいほどの歓声が広がっています。」 "

ナレ「冒頭、トランプ大統領はピッツバーグで起きた銃乱射事件に言及。」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「昨日のピッツバーグの訪問は、国として団結し、（心の痛みを）癒やすためのものでした。調和と連帯の一日を終え、悲しみの中帰宅し・・・」

ナレ「国の団結を歌えたトランプ大統領。死の直後、矛先を向けたのは、メディアだった。」

トランプ大統領（翻訳・字幕）「極左メディアが、再び悲劇を利用し、怒りと分断を生み出しているのを見ました。悲しいことに私たちから離れた場所で小さな抗議グループを撮影していました。大げさに取り扱って人々を分断させようとしたのです。メディアは皆さんのストーリーを聞こうとはしない。私ではなく、皆さんのストーリーをです。それがこの国の 33% の人がフェイクニュースを信じている理由です。実に言うのも嫌ですが『国民の敵』なんです。」

金平「えーいつにも増して、メディア攻撃が非常に激しいスピーチになっています。聴衆の方から、激しいまあ同意の歓声が上がっているというような、とっても、不穏な空気が会場にながれています。」

ナレ「これまでホワイトハウスでアメリカの政治をつぶさに見てきたアコスタ記者。トランプ氏が展開するメディア批判についてこう話す。」

アコスタ記者（翻訳・吹替）「彼は、これが中間選挙で勝つための、ベストな戦略だと考えているんです。この国の政治状況は、嘆かわしいものです。何度か大統領選を報道し、直接取材した大統領は二人目ですが、こんな政権は見たことがありません。」

ナレ「アコスタ記者は、これはアメリカだけの問題ではないと話す。」

アコスタ記者（翻訳・吹替）「心配なのは他国の指導者がトランプ大統領をまねようと、ドナルド・トランプ流にふるまっていること。そして同じようにして勝とうとする指導者が生まれている。世界の人々に本当に考えてほ

しいことです。」

VTR を承けてのスタジオと中継との間で以下に朱記したやり取りが繰り返された。

膳場「再びワシントンの金平さんとなぎます。あの中間選挙というのは、日本から見ると分かりにくいですが、要は連邦議会の相当数の議員が改選されるということで、意味合いは大きい。つまり、トランプ大統領の信任投票だと、考えていいんですよね。」

金平「はい、その通りです。あの一実（トランプ）はアメリカに向けて、東京を立ったその日にペンシルベニアのピッツバーグでユダヤ教の礼拝場が襲撃されて、11人が殺害されるというショッキングな事件が起きました。憎しみを直接行動で晴らすというまあヘイトクライム、しかも、アメリカ人同士のヘイトです。えー銃規制の問題がまたもや大きく浮上してきました。現場で取材していて、この国が二つの国民に分断されていて、お互いが非常に強く深く対立していることを実感させられました。トランプ大統領が、選挙戦の演説や Twitter で、ますますこの分断を煽っているようにも思いました。トランプ大統領がシナゴグに献花に訪れた際、非常にたくさんのピッツバーグ市民が、市の中心部に集まって、来てほしくない意思表示をしていたのが、非常に強く心に残っています。今回の中間選挙の最大の焦点は、トランプ大統領自身だというふうにも言ってもいいと思います。」

日下部「それにしても大統領と主要メディアの対立、これもすさまじいものがありますね。」

金平「これはですねもう、正直言ってここまでエスカレートしているっていうふうには想像できなかったんですけども、あの CBSN のホワイトハウス担当のメジャー・ギャレット記者に話を聞くことができたんですけども、えー彼が言うには、長い記者生活の中で、こんな異常事態っていうのは経験したことがないっていうふうに言っていました。えートランプ大統領は主要メディアのことを国民の敵、**Enemy of the people** っていう言い方をして、支持者集会の会場では、記者たちが身の危険を感じながら取材を続けていました。実際に CNN には、パイプ爆弾が送り付けられたりしてますし、記者には実際ボディガードがついていました。」

膳場「金平さん投票まであと三日ですけども、今現在、選挙戦最終盤の予測ってのはどうなっていますか？」

金平「えー上院が共和党有利っていう構図はそれほど変わらないか、あるいは、むしろ共和党が議席を増やすんじゃないかっていう予測もあります。」

金平「一方の下院は共和党優位の議席数は、逆転して、野党の民主党が優位に立つという予測では、各種予測は一致しているんですけども、仮に共和党が大負けしますと、民主党によるトランプ大統領にまつわる様々な疑惑追及っていうのが、さらに勢いづくと思います。」

金平「ただ、トランプ大統領は勝てば自分の手柄だけれども、負けた場合でも、それはまあ、自分の責任ではないというような基本的なスタンスで、えー2020年の2期目の大統領選挙を熱望していると、というのが現実です。」

金平「えーさらに今度の選挙結果によってはですね、トランプ政権に追随する傾向が顕著な日本政府の今後のスタンスとも、密接に関係してくることは間違いありません。えーさらにこちらで取材を続けたいと思います。」

それぞれの政党への支持や不支持について取り上げられた場面が多かったが、トランプへの不支持の人々については比較的冷静なシーンが少なくないのに対して、トランプ支持の人々を取り上げたシーンで比較的冷静なシーンというのは少なく熱狂的なシーンが目立った。上院と下院とでは選挙制度が異なるということもあるが、上院では共和党有利が囁かれていることを念頭に置くと、共和党支持やトランプ大統領支持の人々でも冷静なシーンというのはいくらでも取り上げることができただろうし、逆に民主党支持やトランプ大統領支持の人々でも熱狂的なシーンというのはいくらでも取り上げることが可能だったろう。

時間配分という量の問題もさることながら、質の問題において、熱狂と冷静という対比が意図的に演出されており、トランプ支持者を過度に熱狂的なものとして取り上げており、後述の印象操作という点でも問題があるの

は去ることながら、報道姿勢として放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点から問題だと考えられるものであった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・【特集】直前報告！アメリカ中間選挙：印象操作の疑いあり

トランプ大統領への支持の人々を取り上げた場面で冷静なシーンというのが少なかったのに対して、トランプ不支持や民主党支持の人々を取り上げた場面は比較的冷静なシーンが少なくなかった。トランプ支持の中でも冷静なシーンを探すことや、民主党支持やトランプ不支持の人々でも熱狂的なシーンというのを探し取り上げることが、さほど困難とは考えにくい点も踏まえると、こうした対比を意図的に造り出していた今回の特集は、トランプ支持者は冷静さを欠いた人々だという印象を与える恐れのあるものであると言えるだろう。

また、銃規制の問題について、銃規制を求める側がどの程度の強度の規制を求めているのかという点については触れられていなかった。アメリカでの銃規制を巡る議論は、特殊アメリカ的な論点であり、規制賛成派であってもどの程度の規制を設けるのかという点については様々な議論があり、ある種の銃について特別に規制をするという人も少なくない。そうした点を触れずに単なる銃規制として日本で紹介するという行為は、銃規制を巡る議論で銃規制を求める人々の主張について誤った印象や理解を視聴者に抱かせてしまうという恐れのあるものと言えるだろう。

検証者所感

・【特集】直前報告！アメリカ中間選挙

トランプ大統領の「極左メディアが、再び悲劇を利用し、怒りと分断を生み出しているのを見ました。悲しいことに私たちから離れた場所で小さな抗議グループを撮影していました。大げさに取り扱って人々を分断させようとしたのです。メディアは皆さんのストーリーを聞こうとはしない。私ではなく、皆さんのストーリーをです。それがこの国の33%の人がフェイクニュースを信じている理由です。実に言うのも嫌ですが『国民の敵』なんです。」という発言について、メディアが極左かどうかという点は別にしても「皆さんのストーリーを聞こうとはしない」という点は非常に興味深い指摘だと感じた。

確かに日本のメディアにおいても、視聴者や国民のストーリーを聞こうとするよりは、メディアの側に何らかのストーリーがあり、そうしたストーリーに沿ってファクトを集めそうしたストーリーに都合の良いファクトを取り上げ、都合の悪いファクトは取り上げない、というような姿勢や自分たちのストーリーを視聴者や国民に押し付けてくるという姿勢が目立つようなことも少なくない。こうしたメディアが語るストーリーを共有できるかどうかというのが試金石となるなら、政治が分断を煽るというだけではなく、トランプ大統領の言うように「怒りと分断を生み出している」というのも部分的にはあたっているのかもしれない。